

土地改良事業計画概要書

県営大井平地区

区画整理

(経営体育成基盤整備「農地中間管理機構関連型」) 事業

目 次

第1章 目 的	-----	1
第2章 地域の所在及び現況	-----	2
第1節 地 域	-----	2
第2節 地 積	-----	2
第3節 現 況	-----	3
第4節 地域環境の概況	-----	13
第3章 基本計画	-----	14
第1節 事業計画の要旨	-----	14
第2節 営農計画及び土地利用計画	-----	15
第3節 用水計画	-----	16
第4節 排水計画	-----	18
第5節 道路計画	-----	21
第6節 農用地造成計画	-----	21
第7節 農用地整備計画	-----	22
第4章 工事又は管理の要領	-----	25
第1節 工事の内容	-----	25
第2節 管理の要領	-----	25
第5章 換地計画の要領	-----	26
第6章 費用の概算	-----	28
第7章 効 用	-----	29
第8章 他の事業との関係	-----	30
第9章 計画概要図	-----	31

第1章 目的

本地区は津南町の西側に位置し、一級河川信濃川の河岸段丘面に広がる約46haの耕地で、稲作の盛んな地域である。地区の中央には町道大井平城原線が通り、東側には一級河川大門川、西側には一級河川馬界川が流れている。

河岸段丘上に形成された耕地のため、水が貴重な地域であり、昭和40年代の基盤整備によりため池整備による用水の確保と合わせて区画整理による10a区画への拡大を行っている。平成7年度～平成10年度の県営土地改良総合整備事業では、パイプライン化を図るなど、作物の安定生産、生産の省力化を進めており、営農意欲の高い地域である。

しかし、小規模経営による兼業農家が多く、高齢化が進む中で、耕作条件の厳しさや水利施設の維持管理の増加から集積化が進んでおらず、今後は、農地の遊休化や耕作放棄地の発生が懸念される。

このような状況を踏まえ、維持管理の節減、大型機械の導入による生産性の向上及び経営耕地の集積・拡大を図るため、区画の拡大と道水路等の農業基盤整備が不可欠である。

本事業により、区画整理を実施し、大型機械化体系及びスマート農業等の新技術導入による農作業の省力化と農地集積の推進によるコスト縮減を図り、水稻生産の効率化と生産コストの低減を実現し、生産性向上によって生じる余剰労働力を活用して地区外を含めた園芸栽培の拡大を促進し、収益性の高い持続可能な地域農業の確立を図る。

第 2 章 地域の所在及び現況

第 1 節 地域

事 業 名	地 域
区画整理	新潟県中魚沼郡津南町大字上郷大井平、谷内 地内

第 2 節 地積

(令和 7 年 8 月現在)

事 業 名	現況地目	田	畑	原 野	山 林	その他	計	備 考
	市町村名	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	
区画整理	津南町	43.5	2.2	0.3	-	9.3	55.3	
合 計		43.5	2.2	0.3	-	9.3	55.3	

第3節 現 況

1. 気象及び海象

(1) 一般気象

観測所名	津南観測所	かんがい期	非かんがい期	計又は平均	備 考
観測期間	1991年～2020年	5月～8月	9月～4月		
平均気温 (°C)		20.1	6.3	10.9	気象庁HPデータ 1991年～2020年
降水量	平均 (mm)	600.8	1,338.0	1,938.8	〃
	基準年 (mm)	817.5	1,351.5	2,169.0	気象庁HPデータ 2019年
降水日数	平均 (日)	52.8	140	192.8	気象庁HPデータ 1991年～2020年
	基準年 (日)	49	125	174	気象庁HPデータ 2019年
根雪期間		12月16日～4月11日		117日間	森林総合研究所HPデータ (十日町試験地) 1993年～2025年
無霜期間		4月15日～11月18日		218日間	気象庁HPデータ (高田) 1991年～2007年
最多風向		南	最大風速 (風向)	20.1 m/s (南)	最多風向発生時期 2月～5月, 8月～11月 最大風速発生年月日 2012年4月3日 気象庁HPデータ 1991年～2020年

(2) 特殊気象

観測所名	第 1 位			第 2 位			第 3 位			第 4 位			第 5 位			備考
	津南観測所															
観測期間	数 量	年 月 日	発 生 確 率	数 量	年 月 日	発 生 確 率	数 量	年 月 日	発 生 確 率	数 量	年 月 日	発 生 確 率	数 量	年 月 日	発 生 確 率	
1957年～2025年																
最大日雨量 (mm)	192.5	2019. 10.12	1/40	174.5	2013. 9.16	1/25	156.5	2017. 10.23	1/15	147.0	1982. 9.12	1/10	139.0	1998. 9.16	1/10	気象庁HPデータ (1976～2025) 新潟県R3水文統計 【第14版】(1957～2019)
最大時間雨量 (mm)	62.0	2005. 9.10	—	58.0	2005. 7.30	—	55.0	1988. 8.25	—	49.5	2016. 8.2	—	49.0	2022. 8.4	—	気象庁HPデータ (1976～2025)
最大4時間雨量 (mm)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
最大連続雨量 (mm)	479.0	1974	1/50	470.0	1970	1/40	399.0	1964	1/20	370.0	1971	1/10	360.0	2012	1/10	新潟県R3水文統計 【第14版】 (1957～2019)
最大連続干天日数 (日)	36	1987	1/50	32	1973	1/30	31	1984	1/30	30	2018	1/25	27	1992	1/10	新潟県R3水文統計 【第14版】 (1957～2019)

(3) 海象

該当なし

2. 地形、地質及び土壌

本地区は、津南町西部に位置し、東西方向に標高444mから436m、南北方向に452mから425mの範囲で平均1/45で傾斜しており、どの方向も高低差が大きくなっている。

土壌条件は、地区全域で黒色土壌が確認され、地元の聞き取りから乾田と判断されるが、一部のほ場では湧水が発生している。

(1) 地形

事業名	地目	田						畑・その他						受益地標高(m)		備考
		1/1,000未満	1/1,000～1/100	1/100～1/20	1/20～1/11.5	1/11.5以上	計	3°未満	3°～8°	8°～15°	15°～20°	20°以上	計	最高	最低	
区画整理	面積 (ha)	—	—	43.5	—	—	43.5	2.2	—	—	—	—	2.2	452	425	
	比率 (%)	—	—	100	—	—	100	100	—	—	—	—	100			
合計	面積 (ha)	—	—	43.5	—	—	43.5	2.2	—	—	—	—	2.2			
	比率 (%)	—	—	100	—	—	100	100	—	—	—	—	100			

(2) 地質及び土壌

項目 土壌 統区名	土 壌 統 (区) 区 分 一 覧 表										面積	備考		
	土 壌 断 面							堆積様式	母 材	面積			備考	
	色	腐植	礫層	酸化沈殿物	土 性									泥炭層, 黒泥層 およびグライ層
					表土	下 層 土								
				一層	二層	三層								
H70 黒色土壌粘土 火山腐植型	黒	1層含む 2層含む 3層含む	なし	—	SiC~LiC	SiC~LiC	LiC	泥炭層なし グライ層なし	洪積	—	44.4			
計											44.4			

3. 水利状況

(1) 用水状況

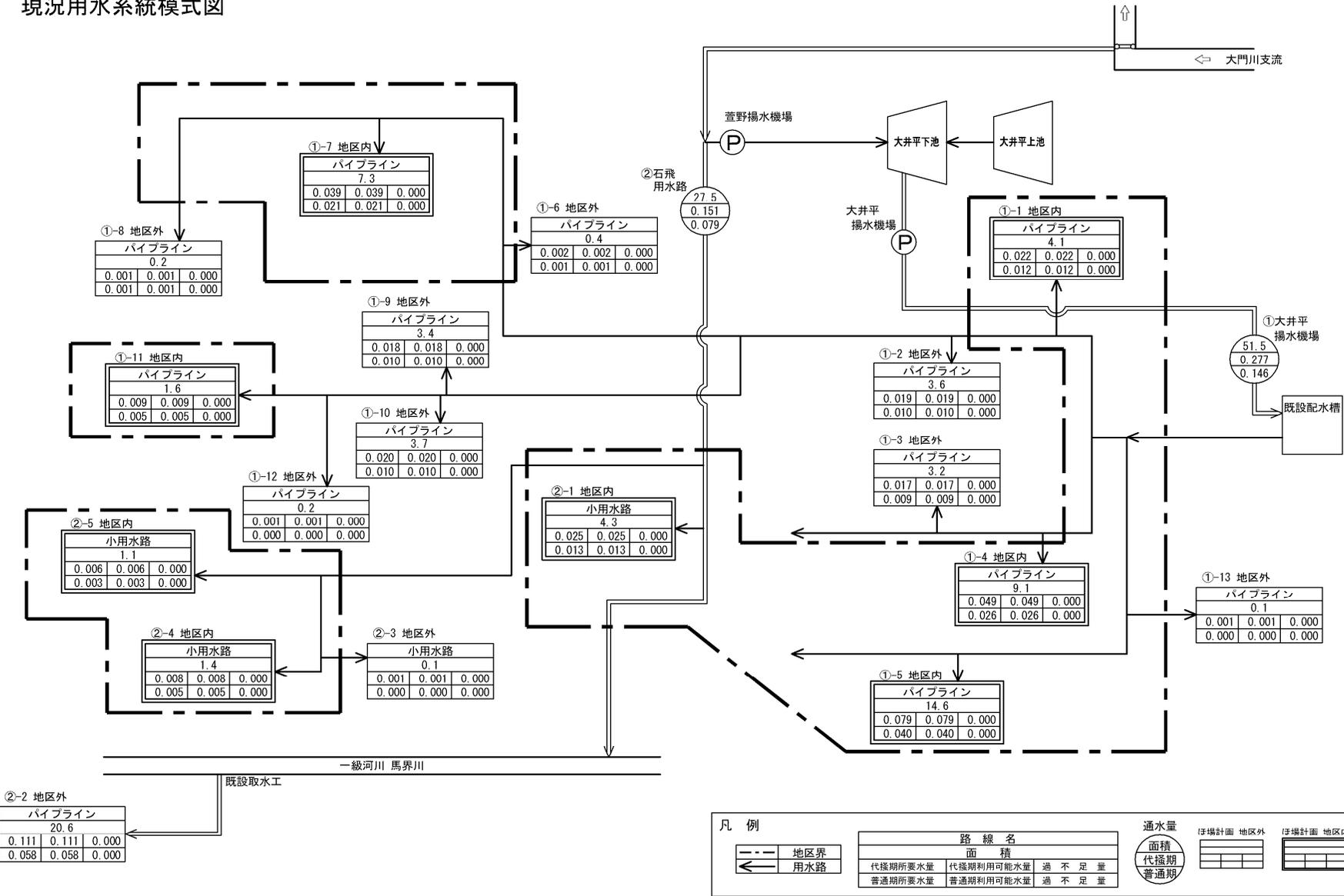
地区の用水源は、地区の東側にある大井平ため池と東側から流れる石飛用水路が主となっている。

大井平ため池からは、大井平揚水機場により揚水され、地区高位部の配水槽へ送水し、パイプラインによりかんがいされている。石飛用水路からは、開水路によりかんがいされており、石飛用水路の一部は、用排兼用水路となっている。パイプラインは、平成7年～平成10年に整備されているが、開水路は昭和40年代の整備のままであるため、老朽化が著しく維持管理に苦慮している。

(ア) 用水系統

現況用水系統模式図のとおり。

現況用水系統模式図



①-7 地区内

パイプライン		
7.3		
0.039	0.039	0.000
0.021	0.021	0.000

①-8 地区外

パイプライン		
0.2		
0.001	0.001	0.000
0.001	0.001	0.000

①-6 地区外

パイプライン		
0.4		
0.002	0.002	0.000
0.001	0.001	0.000

①-9 地区外

パイプライン		
3.4		
0.018	0.018	0.000
0.010	0.010	0.000

①-11 地区内

パイプライン		
1.6		
0.009	0.009	0.000
0.005	0.005	0.000

①-10 地区外

パイプライン		
3.7		
0.020	0.020	0.000
0.010	0.010	0.000

①-12 地区外

パイプライン		
0.2		
0.001	0.001	0.000
0.000	0.000	0.000

②-5 地区内

小用水路		
1.1		
0.006	0.006	0.000
0.003	0.003	0.000

②-1 地区内

小用水路		
4.3		
0.025	0.025	0.000
0.013	0.013	0.000

①-2 地区外

パイプライン		
3.6		
0.019	0.019	0.000
0.010	0.010	0.000

①-3 地区外

パイプライン		
3.2		
0.017	0.017	0.000
0.009	0.009	0.000

①-4 地区内

パイプライン		
9.1		
0.049	0.049	0.000
0.026	0.026	0.000

②-4 地区内

小用水路		
1.4		
0.008	0.008	0.000
0.005	0.005	0.000

②-3 地区外

小用水路		
0.1		
0.001	0.001	0.000
0.000	0.000	0.000

①-13 地区外

パイプライン		
0.1		
0.001	0.001	0.000
0.000	0.000	0.000

①-5 地区内

パイプライン		
14.6		
0.079	0.079	0.000
0.040	0.040	0.000

②-2 地区外

パイプライン		
20.6		
0.111	0.111	0.000
0.058	0.058	0.000

凡例

---	地区界
←	用水路

路線名	
面積	
代掻期所要水量	代掻期利用可能水量
普通期所要水量	普通期利用可能水量
過不足量	過不足量

通水量

面積
代掻期
普通期

仔場計画 地区外

仔場計画 地区内

(イ) 用水施設

事業名	項目 施設名	かんがい面積						計	許可水利権		慣行水利権等		延べ 取水量 m ³ /s	備考	
		500ha以上		500～100ha		100ha未満			箇所	ha	箇所	m ³ /s			箇所
		箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所					ha		
区 画 整 理	揚水機	—	—	—	—	1	51.5	1	51.5	—	—	—	—	0.277	大井平ため池
	自然取入口	—	—	—	—	1	27.5	1	27.5	—	—	—	—	0.151	石飛用水路
	合 計	—	—	—	—	2	79.0	2	79.0	—	—	—	—	0.428	

(ウ) 改修を要する施設一覧表

事業名	項目 施設名	施設名又は箇所数	受益面積 (ha)	構 造	規 模	新設年度 又は更新年度	改修を必要 とする理由	備 考
区 画 整 理	用水路	ほ場内水路	43.5	パイプライン・フリーユーム	8.5km	H10・S45	水管理の合理化 水管理労力の省力化	
	合 計	—	43.5	—	—	—	—	

(2) 排水状況

排水は、昭和40年代に整備された排水路を更新することなく利用しており、各耕区の排水を集水して地区周辺の沢へ自然排水している。排水路は整備から50年以上経過しており、老朽化が著しく維持管理に苦慮している。

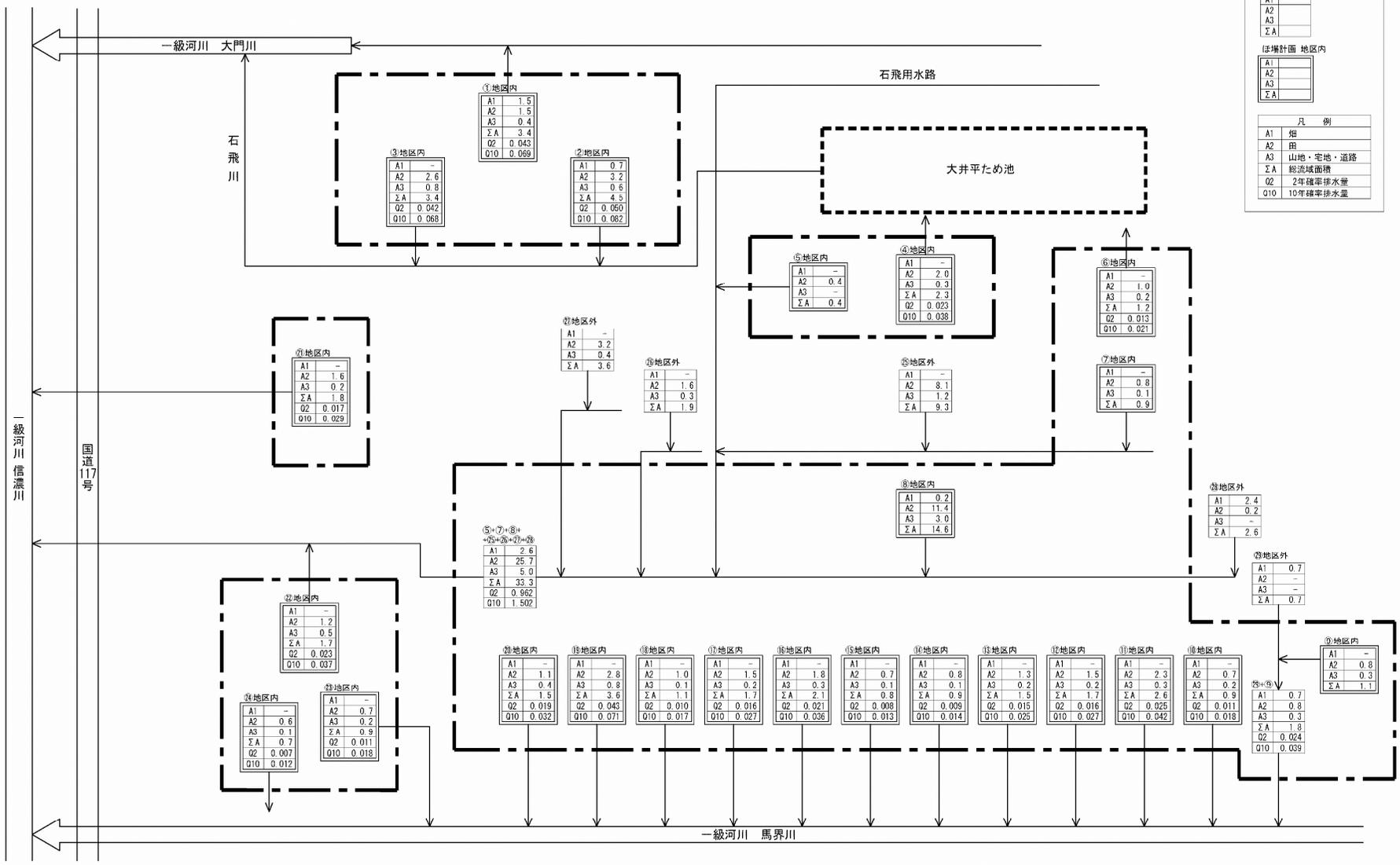
(ア) 排水系統

現況排水系統模式図のとおり。

現況排水系統模式図

凡 例

流域計画 地区外	
A1	
A2	
A3	
ΣA	
流域計画 地区内	
A1	
A2	
A3	
ΣA	
凡 例	
A1	畑
A2	路
A3	山地・宅地・道路
ΣA	総流域面積
Q2	2年確率排水量
Q10	10年確率排水量



(イ) 排水施設

事業名	項目 施設名		排水面積						計		排水慣行 (m ³ /s)		現況排水能力 (m ³ /s)		備考
			500ha以上		500～100ha		100ha未満								
	箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha							
区画整理	自然	排水路	—	—	—	—	1	73.4	1	73.4	—	—	—	2.237	全排水量
	機械	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
合計			—	—	—	—	1	73.4	1	73.4	—	—	—	2.237	

(ウ) 改修を要する施設一覧表

事業名	項目 施設名		施設名又は箇所数	受益面積 (ha)	構造	規模	新設年度 又は 更新年度	改修を必要とする理由	備考
	箇所	ha							
区画整理	自然	排水路	ほ場内水路	43.5	フリューム・柵渠	12.8km	S45	排水状況の改善	
	機械	—	—	—	—	—	—	—	
合計			—	43.5	—	—	—	—	

4. 河川状況

該当なし

5. 道路概況

地区内の道路は、地区中央に町道大井平城原線があるものの、農道は幅員 3 m未満の道路の割合が70%以上で、大半が幅員2.0m～2.5 mの狭小な路線であることから、車両のすれ違いが困難な状況である。

6. 営農状況

農業生産は水稻を中心に行っているが、区画が狭小なため大型農業機械の導入が困難な状況であり、農業者の労力負担が大きく、担い手への農地集積が進まないなどの課題がある。

第4節 地域環境の概況

津南町は、新潟県の南端に位置しており、長野県に接している。市域は東西約13.4km、南北約24.4kmに及び、総面積は170.28km²を有している。

本町は、町の東西を貫流する信濃川と、これに合流する志久見川・中津川・清津川の河川に沿って、雄大な河岸段丘が形成され、そこに生息・生育する生き物も身近な種から貴重な種まで多種多様である。農村環境においては、中山間地域に広がる良好な棚田景観をはじめ、我が国の原風景を思わせる良好な環境が広がっている。

第3章 基本計画

第1節 事業計画の要旨

1. 要 旨

本地区は小規模兼業農家が多く、高齢化が進行している。農地区画の60%以上が20 a 以下の狭小区画であり、10 a と30 a 区画が混在するなど不均衡なほ区が点在し、作業効率の低下を招いている。また、地区中央の町道を基幹とする農道網は、全体の70%以上が幅員3 m 未満と狭小で、大型農業機械の導入に対応できない状況である。

本事業により、区画整理を実施し、大型機械化体系及びスマート農業等の新技術導入による農作業の省力化と農地集積の推進によるコスト縮減を図り、水稻生産の効率化と生産コストの低減を実現し、生産性向上によって生じる余剰労働力を活用して地区外を含めた園芸栽培の拡大を促進し、収益性の高い持続可能な地域農業の確立を図る。

2. 事業別面積

事業目的	事業名	区画整理						計 (ha)	備 考
	土地 利用区分	水 田 (ha)	普 通 畑 (ha)	牧 草 畑 (ha)	果 樹 園 (ha)	道 水 路 (ha)	そ の 他 (ha)		
区画整理		42.3	2.1	-	-	10.8	0.1	55.3	
計		42.3	2.1	-	-	10.8	0.1	55.3	

3. 環境との調和への配慮

保全対象生物として、本地区で典型的に見られる生物で、ほ場整備工事により減少が懸念されるトウキョウダルマガエルを選定する。

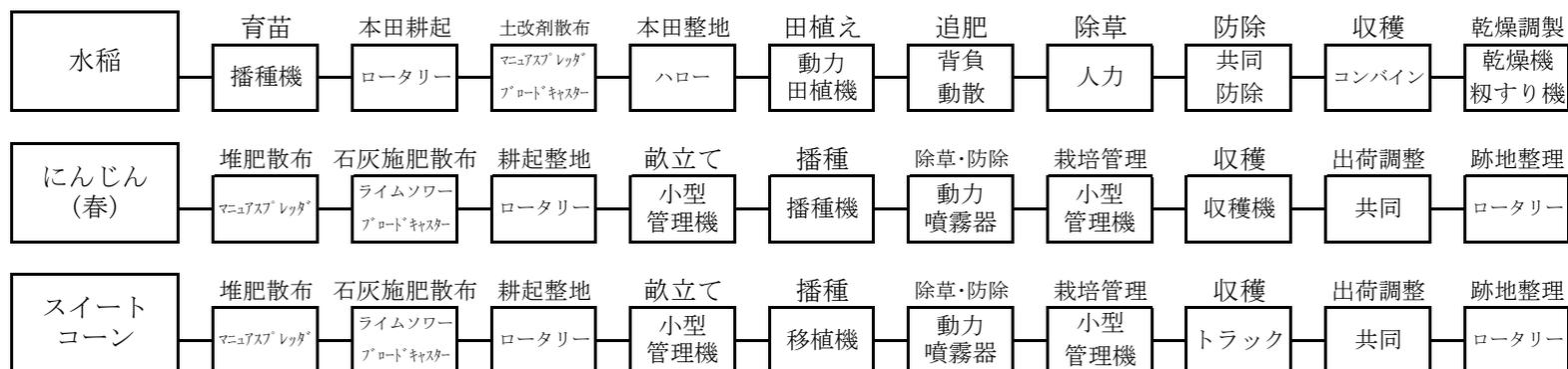
トウキョウダルマガエルは、平地の水辺に生息する。初夏から夏に水田や浅いため池で産卵し、盛夏頃に上陸して水辺の草地などに分散し、水辺の土の中で越冬する。

このことから、水田や草地等の間を移動する際にコンクリート水路に個体が転落しないよう、蓋掛けまたは暗渠化を行う。また、転落時の対策として集水柵に脱出工を設置する。

第2節 営農計画及び土地利用計画

1. 営農計画の概要

- a) 経営方式 水稲（単作）＋園芸作物（にんじん(春)・スイートコーン）
- b) 経営組織 農地集団化、大型機械導入による生産性向上を図ると共に、土地利用権の集積に努め、農業経営の安定を図る。
- c) 作業体系



2. 土地利用区分

事業名	土地利用区分 区分	耕地							採草 放牧地 (ha)	原野 (ha)	山林 (ha)	その他 (ha)	計 (ha)	備 考
		水田 (ha)	普通畑 (ha)	牧草畑 (ha)	果樹園 (ha)	茶園 (ha)	その他の 樹園地 (ha)	小計						
区画 整理	現 況	43.5	2.2	-	-	-	-	45.7	-	0.3	-	9.3	55.3	
	計 画	42.3	2.1	-	-	-	-	44.4	-	-	-	10.9	55.3	
計	現 況	43.5	2.2	-	-	-	-	45.7	-	0.3	-	9.3	55.3	
	計 画	42.3	2.1	-	-	-	-	44.4	-	-	-	10.9	55.3	

第3節 用水計画

1. 計画基準年

平成2年

県営土地改良総合整備事業に準じる。

2. 計画かんがい方式

a) かんがい期間

5月～8月

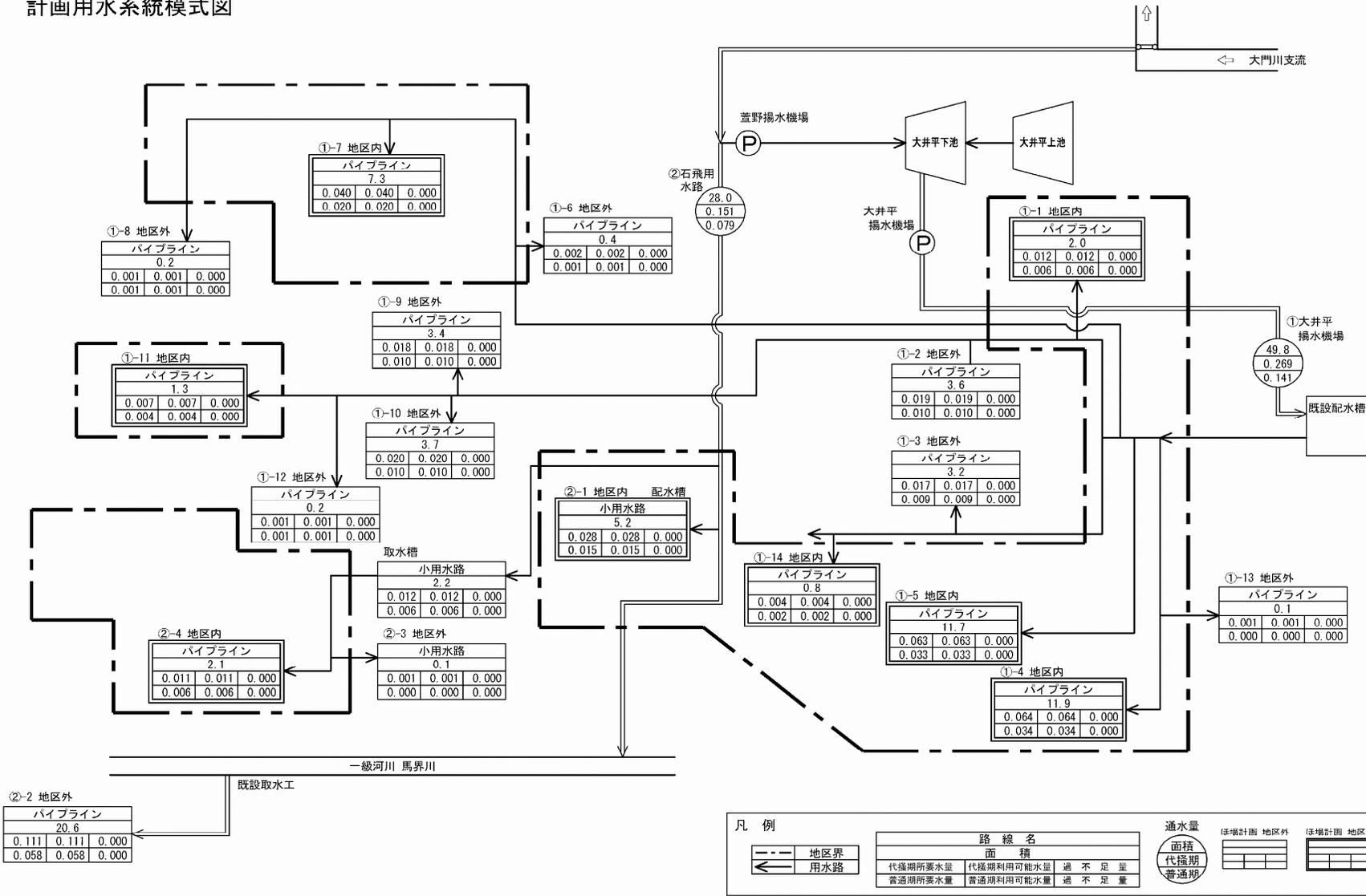
b) かんがい方式

自然圧パイプライン式かんがい

3. 計画用水系統

計画用水系統模式図のとおり。

計画用水系統模式図



4. 計画用水量

系統名	項目 種別	面積 (ha)		水田かんがい			水田畑利用			畑地かんがい			その他		消費水量 (m^3/s)	損失率 (%)	粗用水量		備考		
		事業名		普通期	代かき期	面積 (ha)	一日当たり計画 平均かん水深 (mm/日)	平均間断日数 (日)	面積 (ha)	一日当たり計画 平均かん水深 (mm/日)	平均間断日数 (日)	面積 (ha)	単 位 計 画 平 均 水 量 ($m^3/日$)	面 積 (ha)			平均 最大	平均			
		区 画 整 理	計																	単 位 計 画 平 均 水 量 (mm)	単 位 計 画 代 か き 水 量 (mm)
大井平ため池	農業用水	35.0	35.0	21	150	35.0	-	-	-	-	-	-	-	-	0.089 ~ 0.171	10	0.099	0.190			
石飛用水路	農業用水	7.3	7.3	21	150	7.3	-	-	-	-	-	-	-	-	0.019 ~ 0.035	10	0.021	0.039			
計		42.3	42.3	21	150	42.3	-	-	-	-	-	-	-	-	0.019 ~ 0.171	10	0.120	0.229			

5. 水源計画

(1) 水利用計画

該当なし

第4節 排水計画

1. 計画基準雨量

日雨量

133.1 mm (1/10確率年)

76.4 mm (1/2確率年)

津南観測所

2. 計画排水方式

自然排水

3. 計画排水系統

計画排水系統模式図のとおり。

4. 計画排水量

排水系統名	項目	受益面積 (ha)		流域面積 (km ²)		基準雨量 (mm)	降雨による直接単位流出量 (m ³ /s/km ²)		基底流出量 (m ³ /s/km ²)		全排水量 (m ³ /s)			単位排水量 (m ³ /s/km ²)		備考	
		事業名	区画整理				計	山地	平地	山地	平地	山地	平地	山地	平地		山地
				自然排水	機械排水												
															自然排水		
一級河川 大門川		11.0	0.025	0.110	133.1	4.51	2.18	-	-	0.113	0.240	-	4.51	2.18			
一級河川 馬界川		15.9	0.027	0.166	133.1	4.51	2.18	-	-	0.122	0.362	-	4.51	2.18			
一級河川 信濃川		17.5	0.075	0.331	133.1	4.51	2.18	-	-	0.343	1.411	-	4.51	2.18			
計		44.4	0.127	0.607						0.578	2.013	-					

第5節 道路計画

1. 道路

番号	項目		幅(有効) (m) × 延長 (km)	構造	既設道路との関係	備考
	路線名					
—	支線道路		5.0(4.0) × 10.0	道路高0.3m～、側法 1:1.5 敷砂利・スリップ止め舗装	町道 大井平城原線と接続 管理団体：町道 津南町 農道 津南郷土地改良区	

2. 索道

該当なし

第6節 農用地造成計画

該当なし

第7節 農用地整備計画

1. 区画整理

(1) 区画の形状

長辺×短辺 (m)	区画面積 (ha)	全体面積 (ha)	割合 (%)	田面差 (m)	備考
田 150×30	0.5～	6.8	15.3	—	
	0.3～0.5	29.3	66.0	—	
	～0.3	6.2	14.0	—	
畑 不整形	—	2.1	4.7	—	
計		44.4			

(2) 表土扱い

面積 (ha)	表土扱い要否の理由	扱い深 (cm)	土量 (m ³)	備考
44.4	要: 土壌調査の結果及び基盤切盛を行うため	15	66,600	

(3) 末端道水路配置図

計画平面図のとおり



2. 暗渠排水

該当なし

3. 客土

該当なし

4. 農地保全

該当なし

第4章 工事又は管理の要領

第1節 工事の内容

項目 施設名	工事内容	事業量	規模・構造	備考
田畑整地	整地工	44.4 ha	表土扱い・基盤整地、標準区画45 a	畑を含む
農道	道路工	10.0 km	幅員5.0(4.0)m、砂利舗装、Co舗装	
用水路	用水路工	6.8 km	VUφ75mm～600mm、BFB600mm、BF300mm、配水槽	
排水路	排水路工	3.4 km	HF300mm×300mm、HF900mm×900mm、VUφ200mm～450mm	

第2節 管理の要領

1. 管理者

施設名	管理者	備考
用水路、配水槽、排水路、農道、水管理省力化システム	津南郷土地改良区	

2. 管理方法に関する基本的事項

本事業において造成（改修・整備）される施設については、津南郷土地改良区が維持管理計画に基づき適正な管理を行う。

第5章 換地計画の要領

1. 換地計画樹立の必要性

当該事業は土地改良法第2条第2項に基づく区画整理事業であり、その性質上換地計画を樹立する必要性がある。

2. 換地計画樹立の基本方針

(1) 従前の土地の地積の基準

換地区名	地積の基準
全換地区	換地交付の基準とする従前の土地の地積は、土地改良事業計画確定の日の登記地積とする。ただし、上記の日から3か月以内に測量士、測量士補又は土地家屋調査士の測量した実測図及び隣接土地所有者の同意書を添付して申し出があった場合は、その申し出のあった地積とする。

(2) 農用地集団化の方法

換地区名	区分	地帯別、グループ別団地の設定	個人別換地の方法		
			位置の選択方法	一戸当たり目標団地数	区画畦畔の取扱い
全換地区		1. 営農グループ別集団化 担い手農家が耕作する農用地は、利用権設定をして集団的営農に適した位置にできるだけ集団化する。	各人の従前の土地条件（区画形状・日照等）を基準としながら、意向調査等の結果を踏まえて、営農グループ別集団化との調整を図りながら、地域の営農形態が向上するよう地区全体の合理的な土地利用計画を策定し、これに基づき換地の位置を選定して集団化する。	1戸当たりの団地数は、概ね1～2団地を目標とする。	固定畦畔とする。

(3) 非農用地の換地方法

換地区名	区分	種類	非農用地区域の位置の概略	面積(m ²)	換地の手法	換地取得予定者	その他
全換地区		宅地	おおむね従前のおおむね	470	特定用途用地換地	従前の土地所有者	

(4) 清算の方法

増価額比例地積清算方式

3. 土地改良法第5条第6項に規定する国有地等の編入承認に係る地積

用途	区分	機能交換に係る土地 (ha)				一般国有地 (ha)	合計 (ha)	備考
		国有地	都道府県有地	市町村有地	計			
道水路		—	—	3.8	3.8	—	3.8	
計		—	—	3.8	3.8	—	3.8	

4. 換地処分の特則に関する特則

換地区内の区画形状の変更に係る工事が全て完了し、確定測量が実施されたときは、土地改良法第89条の2第10項で準用する同法第54条第2項本文の規定にかかわらず、換地処分ができるものとする。

第6章 費用の概算

(単位：千円)

事業名 区分	区画整理	合計	備 考
主 要 工 事	1,819,649	1,819,649	内工事雑費 30,327 内地方事務費 56,322
附 帯 工 事	-	-	
計	1,819,649	1,819,649	

(単位：千円)

事 業 名 等	区 分	工 事 費				工 事 雑 費				地 方 事 務 費			
		国	県	市町村	地元	国	県	市町村	地元	国	県	市町村	地元
区画整理	負 担 率	62.5%	27.5%	10%	-	-	100%	-	-	-	100%	-	-
	負 担 金 額	1,083,125	476,575	173,300	-	-	30,327	-	-	-	56,322	-	-
合計	負 担 率	62.5%	27.5%	10%	-	-	100%	-	-	-	100%	-	-
	負 担 金 額	1,083,125	476,575	173,300	-	-	30,327	-	-	-	56,322	-	-

第7章 効 用

事業名等	項目		年総効果（便益）額 （千円）	年総増加農業所得額 （千円）	備 考
	区分				
区 画 整 理	作物生産効果		39,053	1,866	総費用（現在価値化）＝ 1,693,078 千円 総便益（現在価値化）＝ 1,949,983 千円 $\frac{1,949,983}{1,693,078} = 1.15$ 総費用総便益比＝ $\frac{1,949,983}{1,693,078} = 1.15$ 増加所得償還率＝ $\frac{-}{62,002} \times 100 = -$
	営農経費節減効果		57,247	60,245	
	維持管理費節減効果		△ 2,053	△ 109	
	耕作放棄防止効果		250	－	
	農業労働環境改善効果		3,774	－	
	景観・環境保全効果		116	－	
	国産農産物安定供給効果		6,359	－	
	計		104,746	62,002	
合 計	作物生産効果		39,053	1,866	総費用（現在価値化）＝ 1,693,078 千円 総便益（現在価値化）＝ 1,949,983 千円 $\frac{1,949,983}{1,693,078} = 1.15$ 総費用総便益比＝ $\frac{1,949,983}{1,693,078} = 1.15$ 増加所得償還率＝ $\frac{-}{62,002} \times 100 = -$
	営農経費節減効果		57,247	60,245	
	維持管理費節減効果		△ 2,053	△ 109	
	耕作放棄防止効果		250	－	
	農業労働環境改善効果		3,774	－	
	景観・環境保全効果		116	－	
	国産農産物安定供給効果		6,359	－	
	計		104,746	62,002	

第8章 他の事業との関係

該当なし

第9章 計画概要図

別紙図面のとおり。

令和8年度新規採択希望(着工地区) 区画整理(経営体育成基盤整備「農地中間管理機構関連型」)事業

新潟県 おおいだいら 大井平地区 計画概要図

縮尺 1:25,000

